世界はどうなる

2025年の世界と日本のリスクは何か。米国ではトランプ氏が大統領に返り咲いた。戦争の行方は。米中関係はどうなる。日本のチャンスは？

（1月17日開催、日本国際交流センター・日外協共催「新春特別講演会」から抜粋）

講　師
㈱日本総合研究所　国際戦略研究所　特別顧問
元 外務審議官　田中 均 氏

盤石な権力基盤　トランプ2.0

新春特別講演会は今年で8回目になる。「歴史は繰り返す」というが、最近の世界情勢は1920～30年代に似てきたように思える。当時のアメリカは経済が沈んで、中国や日本からの移民が急増すると、排斥運動が起こり1924年に移民法が成立した。さらに1929年に世界恐慌が起こり、世界市場の需要が大幅に落ち込んだことにより、関税引き上げ競争が行われ、これらが第二次世界大戦の引き金となった。

トランプ氏が唱える「MAGA（Make America Great Again）」のコンセプトは、まさに「100年前に戻れ」と主張しているようだ。この状況は戦後、世界が努力して築き上げてきた、いわゆる“リベラル・インターナショナル・オーダー”（自由で開かれた国際秩序）――国際連合をはじめ、世界銀行（WB）、国際通貨基金（IMF）、経済協力開発機構（OECD）などの国際機関を創設し、貿易や経済の自由化、地球温暖化対策、人権やジェンダー対策などを推進――に基づく世界の構造が、極めて深刻な危機を迎えているように私には思える。

トランプ2.0は、いろいろな制約があった第1期よりはるかに強力で盤石な権力基盤を手に入れた政権となった。大統領選挙では一般投票も選挙人の投票も圧勝した上に、上院、下院ともに共和党が過半数を占めるトリプルレッドが実現し、かつ最高裁も保守系優位と、アメリカの三権分立の全てを保守で固めた。なおかつ、暗殺の企てをも克服しており、あの瞬間に大統領選挙の結果が決まったともいえる象徴的な絵柄だった。さらには4件の刑事訴追の犯罪人だったことも、大統領に再選されたことで克服してしまった。

トランプ氏の選挙集会で銃撃事件（2024年7月）
（写真：AP／アフロ）

ビジネスマンの論理と交渉術

アメリカ人を短絡的に、「力こそ全て」の傲（ごう）慢（まん）で粗暴なタイプと、知的でロジカル、ジェントルなタイプの2つに分ければ、トランプ氏は明らかに前者で、“自己の利益の最大化”のみを追求するビジネスマンだ。コンベンショナ